

## 第2回庄原市長期総合計画審議会 会議録（摘録）

1. 開催日時 平成27年2月23日（月） 13:00～
2. 開催場所 庄原市役所本庁舎5階 第1委員会室
3. 出席委員 上水流 久彦 委員 ・ 秋山 愿 委員 ・ 積山 豊通 委員  
藤谷 善久 委員 ・ 生熊 剛士 委員 ・ 石川 芳秀 委員  
土井 幹雄 委員 ・ 山内 文雄 委員 ・ 藤元 恵里子 委員  
毛利 昭生 委員 ・ 小林 護 委員 ・ 岡崎 輝子 委員  
早井 千波 委員 ・ 住田 鉄也 委員 ・ 清光 康子 委員  
東 泰治 委員 ・ 明賀 誠 委員 ・ 吉川 由基子 委員  
山岡 芳晴 委員 ・ 大坂 秋雄 委員 ・ 松長 百合子 委員  
手島 亜希 委員 ・ 吉岡 史郎 委員
4. 欠席委員 片島 一平 委員 ・ 堀江 勝 委員
5. 出席職員 企画課長 兼森 博夫  
企画課企画調整係長 加藤 武徳  
企画課企画調整係 本郷 明宏  
企画課企画調整係 森久 敬太
6. 傍聴者 山陽新聞東城支局 支局長 南山 晴雅
7. 会議次第 別紙のとおり
8. 会議経過 別紙のとおり

## 第2回庄原市長期総合計画審議会次第

平成27年2月23日（月）13:00～14:45

庄原市役所 本庁5階 第1委員会室

### 1. 開会

### 2. 会長挨拶

### 3. 報告

- ・住民アンケートの集計結果（速報）について  
    市民アンケート  
    中高生アンケート
- ・県大生（学生）との意見交換について（1月10日開催 しょうばら愛サミット）

### 4. 議事

- ・第2期庄原市長期総合計画基本構想（素案）について

### 5. その他

- ・「基本理念」及び「将来像」の設定にかかる意見調書について
- ・専門部会について
- ・次回開催日（予定）について

### 6. 閉会

## 会議経過

### (1) 開会

### (2) 会長挨拶

本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。今日は 14 時 45 分までとなっているので、意見を出していただき、スムーズに終われるよう進めていきたい。本格的な議論となっていくので、皆様の忌憚のない意見をいただきたい。

### (3) 報告事項

- ・市民アンケート及び中高生アンケートについて  
事務局より、集計結果（速報）について報告。
- ・県大生との意見交換について  
事務局より、1月10日開催「しょうばら愛サミット」について報告。

### (4) 議事

- ・第2期庄原市長期総合計画基本構想（素案）基本事項について  
資料により事務局が説明。

委員：17 頁に「最も深刻な課題～人口減少～」とあるが、将来像を描くにあたって、課題解決の可能性があればよいが、深刻という言葉が計画書に載せるのは少し重いのではないか。「最も重要な課題」としてはどうか。

委員：11 頁の財政状況の記述が足りない。県下での各数値を記し、その上で庄原市がどうなっているかを具体的に記述すべき。12 頁の市債残高のグラフが全体と市民一人当たりの区分が異なるため、減少率が違って見える。誤解をあたえると思うので正確なグラフを使ってもらいたい。13 頁も平成 27 年から合併特例が廃止され国税が減るので、今後財政状況は厳しくなることを具体的に書いたほうがよいように思う。事実が分かるように書き、あわせて職員数の具体的な計画も記述すべきである。

会長：今の意見は率直に、事実を明確にしておくべきではないかということ。市民が庄原市の置かれている状況を的確に理解できるよう修正すべきである。

会長：第 1 期長期総合計画の検証の部分としては、第 1 期を作成した時にどのよ

うな発想として作成したかを明確にすべきである。結果的に目標を達成できていないのは、何か問題があったからだと思う。それについて考えがあればお聞きしたい。

事務局：長期総合計画は合併前の各市町村、すべての町で作成していた。旧庄原市もそうだが、目標人口が現在の人口よりも全て上向きだった。第1期の長期総合計画は合併時に作成し、人口の増加は困難であることは理解していたが、維持はすべきとの審議会意見で整理をしてきた。合併までの流れが大きい要因だと思われる。

会長：次期長期総合計画に対して、具体的にどういったことを進めていくのか、これまで実際できなかったことを共有して検証していくべき。

委員：計画が間違っていたのか、ロードマップ（活動過程の状況）が間違っていたのか、要因分析すべきである。アンケートについても、働く場がない要因はなにかといった部分を分析しなければ具体的な施策には繋がらない。企業の立場からみると、目標を達成する為にはビジョンとプロセスが大事だと思う。

会長：今から計画を作成する中で、どのようにトーンを決めていくかが重要な問題となる。現状をしっかりと認識し、具体的な部分は今後つめていくが、そこを頭の中に入れながら全体の素案を検討していきたい。

委員：第1期において、三つの深刻な問題として、人口、農林業、財政危機をあげていたが、果たしてこの10年間で、行政、市民に危機感の浸透はあったのか。危機感が浸透していなかったのではないかと思う。もっと我々が危機感を持って深刻に捉えないといけないということをスタートにしなければ次の一歩がなかなか出てこない。出生数を増やすことと、社会増を進めていくべきである。先進他市町（邑南町、海士町など）でみても可能であるように思う。IターンUターンといった具体的な対策をしていくべきである。

・基本構想について

資料により事務局が説明。

委員：今後10年間でどういった庄原市を作っていくかというイメージを持ったうえで詳細を考えていきたい。これはあくまで案ということで固定的ではないと理解してよいか。

会長：ひとつの案であるため、これから議論をする中で変更などはしていく。

委員：高齢者対策は重要であると考え。庄原市で歳をとり、一生をおえてよかったと思えるような、高齢者が元気とやすらぎと安心を感じられる部分が欲しい。高齢者対策はどのあたりで謳われるつもりなのか。

事務局：今回は4章までしか説明をしていない。5章の分野別基本政策のほうで記述予定する予定である。

会長：将来像についての意見をそれぞれから出してほしい。

委員：当時の計画に関わったが、「クラスターのまちづくり」の説明があった。今回記述がないのは方向性が変わっていると思われる。面積の広さが弱点になる場合が多いが、逆手に取り、利点になるようまちづくりをしていこうという根底があったと思う。前回の理念を引き継いでいることを見せてほしい。コンパクトシティは国の示すものから考えをアレンジしていくべきだと思う。

事務局：これまでの計画にはクラスターのまちづくり、クラスター型の未来都市という考えが載っていた。クラスターというのはぶどうの房という意味であり、合併前の旧市町7つの粒を連携することで、ひとつのまちを形成し、各市町の個性・特徴を尊重しながらのまちづくりを進めていこうとする考えであった。合併後の取組みとして、「一体感の醸成」と「一体的な発展」を掲げて行ってきたが、今後の10年に向けては、各地域の特長、資源は生かしていくが、市全体のなかで地域を捉えることが必要と考えているので、旧市町の区分を分けた考えは入れていない。

会長：ここで出る意見が基本構想の土台となっていくので、自由に意見を出して欲しい。

委員：高齢者の問題を捉えて、課題は人口だけではないことを捉えて欲しい。それを踏まえた将来像を考え、(独り暮らしの問題、高齢者が増えていくことなど)基本構想の中で膨らませて欲しい。

委員：第3章のコンパクトシティ構想は、庄原市では光と影の両面の問題がある。中心部分だけではなく、周辺への配慮をすべき。柔軟な表現も考慮しておく必要がある。

委員：推移の中での変化として、約80数あった振興区が現在22に集約が進んできた。このことは10年の中での取組みの結果と捉えている。家庭の絆という文言があったが、地域の絆として捉えることが望ましい。計画の中に「攻め」と「守り」を意識し、データもそういった整理をすべき。

委員：前期10年の現状と課題をきちんと整理すべき。そうでないとグランドデザインが描けない。広い市域の中で、1点に集中すると周辺部分が陥没するという問題がある。支所活動を残して、地域の実態に合う取組みをひとつのグランドデザインの中で考えるというクラスターの考えは残すべきである。取組みを始めるとそこに課題が出て来る。きちんと実態把握をしながら修正を加えていくべきである。

委員：基本理念はとても大事であり、市のあり方、活動、市民の行動の基準となるものである。民間の理念と照らし合わせて考えると「社員の幸せ：市民の幸せの実現」がベースであり、「お客様：商品購入者、観光客の幸せ」「社会貢献：社会の中で庄原市はどうあるべきか」を考えるといいのではないか。庄原特有の価値を捉えて、強みを活かした将来像を描き、理念に基づいたビジョンを打ち出すべき。危機感と夢の共有は必要。(悲壮感はまずい)。そういった意識を持ち、長期に渡るアクションプランやロードマップ作りを進めていくべき。

委員：グランドデザインの考えが2つあるが、複合的に考えるべき。農村部の高齢者は生活がしにくくなっている。郵便局や農協の支所もなくなった。コンパクトシティでは解決できないため、クラスターの考えを再構築すべき。

委員：人口増の振興区の要因はなにか知りたい。

委員：立地条件の良さ。

委員：子育てをしやすい庄原市についても基本方針に盛り込んでほしい。

委員：人口減少で、如何に若い人を定住させるかが重要と考える。田舎暮らしや農業をしたい人のニーズデータはある。そのあたりを踏まえて施策を検討すべきである。

委員：市民アンケートの、庄原市はどんな“まち”になると良いと思いますかの上位「就職先や住宅が確保され、家を離れている子や孫が帰郷できるまち」、中高生アンケートの上位「産業や交流が盛んでにぎわいと活力あるまち」にあるように若者の希望になるまちにすべき。新たな雇用の創出とあるが、庄原にはたくさんの企業があり、頑張っている企業もある。そちらを伸ばすことが雇用にも繋がるため、その部分も考えるべきである。

委員：人口問題としては、過去の検証（どうして減ったかを反省）をして考えるべき。

委員：比和は高齢化率が 48.6%となっている。アンケート結果で市民と中高生のギャップがある。いかに庄原市に住んでもらうのかということを考えると、高齢者が住んでよかったと感じられるまちづくりが重要だと思う。市民アンケートの設問 12 で、教育の問題か、少子化の問題か、庄原市の課題が何かというのが重要であり、そこを基本に考えてもらいたい。高齢者の計画、構想もどこかに入れるべきである。

会長：過去 10 年の検証をしてほしい。高齢者、若者、子育て世代（社会的弱者）の住みやすいまちを重点的に考えるべき。庄原市の PR をどう捉えるか。（庄原市の強み、誇りや愛着はなにかを作り出していくべき）そのあたりを考えて基本理念のアイデアを委員も検討してほしい。

#### （5）その他（次回開催日ほか）

事務局：資料 4 で理念、将来像を考えて提出してほしい。専門部会については、希望を出してもらっているので、4 月以降で 4、5 回程度の意見交換を考えている。次回は 3 月 30 日の開催を予定している。

#### （6）閉会